

第2章

景観計画の区域と方針

- 1 景観計画区域
- 2 良好な景観の形成に関する方針





第2章 景観計画の区域と方針

※第2章については、改定するページのみ掲載し、改定部分にアンダーラインを引いています。

1) 中央地域

■景観の特性と課題

- 蔵王山を中心とした稜線や芦田川右岸の草戸山から熊ヶ峰への山並みが、市街地の背景となるみどりをなしています。また、石槌山などの稜線が地域西側の背景となっています。
- 芦田川の流れが河川軸として大きく横たわり、市街地には蓮池川や道三川などの流れが潤いをもたらしています。また、沿岸部からは瀬戸内海を眺望することができます。
- 福山駅を中心とする中心市街地では、にぎわいや楽しさの創出が求められています。また、国道2号など幹線道路の沿道にも、商業・サービス施設の立地が進んでおり、快適な沿道の景観づくりが求められています。
- 本市のシンボルである福山城を中心として、その周辺にはふくやま美術館や広島県立歴史博物館などの文化施設が集積しており、市街地に残るみどりと一体となって、自然や歴史・文化が感じられます。しかし、近年、その周辺に高層建築物が増加しており、その状況は今後益々加速することが想定され、福山城のシンボル性が損なわれることが懸念されます。また、地域内には明王院や往時をしのばせる石碑なども残る西国街道（旧山陽道）もあり、歴史を身近に感じることができます。
- 中央公園やばら公園、緑町公園をはじめとする公園がまちに潤いを与えるとともに、福山市庁舎、リーデンローズ（ふくやま芸術文化ホール）、まなびの館ローズコム（福山市中央図書館、福山市生涯学習プラザ）などの公共施設は、地域のランドマークとなっています。



■まちづくりの方針（都市マスタープラン）

中国・四国地方の拠点都市にふさわしい拠点性と求心力を備えた中心市街地と、快適・利便性に優れた居住環境の整った地域づくりをめざします。





第2章 景観計画の区域と方針

■具体的な景観づくりの方針

多様な自然を身近に感じられる景観づくり ～「みどり」・「水」を守る～

- 蔵王山や石槌山、草戸山から熊ヶ峰への山並みなど、市街地の背景となるみどりを保全し、豊かな自然を感じられる景観をめざします。
- 市街地内の河川や水路の周辺では、潤いを生かして周囲のまち並みと調和した景観をめざします。また、芦田川などの河川空間やため池周辺については、水辺の自然地や水生動植物の保全・保護、親水機能の向上・創出などにより、潤いのある水辺の景観をめざします。



まちの潤いやにぎわい、活力を感じる景観づくり ～「にぎわいの核と軸」を演出する～

- 福山駅周辺では、駅北側の歴史・文化的特性と調和を図りつつ、活力ある現代的な都市整備を進め、中国・四国地方の拠点都市にふさわしい風格とにぎわいが感じられる景観をめざします。
- 福山市庁舎やまなびの館ローズコム（福山市中央図書館、福山市生涯学習プラザ）などの公共施設、ばら公園や中央公園などの公園、道三川や商店街などのまち並みを活用し、まちを歩く楽しさが感じられる魅力的な景観をめざします。
- 国道2号や国道313号などの市街地の幹線道路沿いでは、緑化の促進や屋外広告物などの景観を整えるよう取り組み、潤いやにぎわい、活力が感じられる快適な景観をめざします。
- 住宅地などでは、周囲と調和した落ち着いた景観の誘導に努めます。また、開発地については緑化を促進し、潤いある景観をめざします。



貴重な歴史・文化を次世代に引き継ぐ景観づくり ～「心に残る眺め」を大切に～

- 福山城周辺や明王院周辺などの歴史・文化的景観資源を有効活用するとともに、周辺に残る貴重な風致を保全し、市民の誇りとなる特徴的な景観をめざします。



中央地域で共有する景観づくりの方針

- 福山駅周辺では、歴史・文化的特性と調和を図りつつ、活力が感じられる現代的で風格ある都市景観をめざします。
- 福山城周辺では、歴史・文化的資源を有効活用するとともに、建築物等の高さ制限を行い、福山城のシンボル性を維持しつつ、都心部に残る貴重な風致を保全することで、市民が誇れる景観をめざします。
- 芦田川などの水辺やばら公園、緑町公園などのばらを生かした、潤いある市街地の景観をめざします。





第2章 景観計画の区域と方針

